

「国宝松本城を世界遺産に」

西村 幸夫 講演会

「世界文化遺産の登録へ向けた

日本の現状」

講師 東京大学副学長

西村 幸夫 先生

皆さん、こんにちは。今日の講演は、4つの内容に分けてお話ししたいと思います。一つは、世界遺産の基礎知識、また、日本の暫定一覧表をめぐる状況、世界遺産に推薦する富士山や鎌倉など暫定リストの動き、最後に、松本城を巡る議論についてどう考えたらよいかをお話していきます。

1 世界遺産の基礎知識

世界遺産はもともと、戦争があつた時に文化財を守らなければならぬという発想の延長で生まれました。

ハーグ条約は文化財を戦略拠点にしない。攻撃しないことを定めた条約です。第1条約が、1907年に、第2条約が1954年に締結されました。マークも定められ、それを文化財にかざします。戦争の時に、敵・味方共に文化財をターゲットにしないことを合意するところから、世界的な文化財という発想が生まれています。

日本は1954年のハーグ条約を7、8年前に批准しました。なぜ、それだけ時間が掛かったかですが、駅も軍事施設と考えられるからです。駅の近くの文化財があるとよくない。例えば、京都駅近くにの東寺や東・西本願寺があります。駅が軍事施設だからと、文化財を駅から離すことはできな

い。日本にとって、駅とは軍事目的の施設ではないという、日本なりの駅の解釈を加えてようやく批准することができました。

戦争のないときも文化財が破壊されることがあります。

これはバーミヤンの大仏で1991年に破壊されました。宗教的な考え方の違いが原因です。平和な時にも、内戦が起こると破壊されます。

これはモスター(スタリ・モスト)という橋です。ボスニア・ヘルツェゴヴィナにあります。ユーゴスラビアが1990年から1991年にかけて分裂して、いくつかの新しい国に分かれました。この橋はムスリム教徒が作りました。橋をはさんで、ムスリム教徒とギリシヤ正教徒が住んでいました。宗教的な対立からギリシヤ正教徒により、この橋は破壊されました。それは、回教徒の文化の象徴は、ある意味で敵対するギリシヤ正教徒にとつては、攻撃目標になりました。本来、文化は平和の象徴であるが、内戦の時には、攻撃目標になるということが起こります。これは最終的には、さまざまな国際協力の下に復元されて、世界遺産になりました。

つまり世界遺産とは、危機にある文化遺産を守るというところから発想されました。決して観光目的ではないことをまず強調したいと思います。

世界文化遺産の発想は、1960年にナイル川上流域のヌビア地方の文化財保護のキャンペーンから始まっています。

同時に自然保護の運動は、アメリカが中心となつて、国立公園の重要なものを世界の自然遺産という条約を作るという動きになりました。1972年、両方が一緒になつ

て生まれたのが、世界遺産条約です。

人類共通の財産として保護し、後世に伝えていくという世界遺産の考え方は、エジプトのナイル川のアスワン・ハイ・ダム建設計画により水没の危機にさらされたアブシンベル神殿などのヌビア遺跡群の救済を、ユネスコが世界に呼びかけ、多くの国々の協力で、移築し保護したことから生まれました。ヌビア遺跡群は復元され、1979年、世界遺産(文化遺産)に登録されました。

戦争のないときにも文化遺産は危機に瀕することがあります。これを守る。実際、日本もお金を出しました。具体的には切り刻んで、全体を山の上に運んで、もう一度すえつけないおし、水没しない高さに移し変えました。そのためのお金と技術を世界が提供した。それを指導したのが、ユネスコでした。

こういう大事なものは世界中にあるので、それを守ろう。ということから、世界遺産がはじまりました。

世界遺産は具体的にどういうプロセスをとるのかです。

日本は1992年に世界遺産条約の締約国になりました。締約国になりますと、自分の国から推薦したい暫定リストという一覧表を出します。そして準備のできたものから書類をユネスコの中にある世界遺産委員会に提出します。

文化遺産はイコモス(ICOMOS)という専門組織が、自然遺産は国際自然保護連合(IUCN)という専門組織が審査を行います。

これは、国際記念物遺跡会議の様子です。私は現在、国際記念物遺跡会議の副会長をしています。国内委員会の委員長をして

います。ユネスコの世界遺産委員会の審査を経て決定するという形です。

これはイコモスの世界遺産の審査するメンバーが集まっています。世界遺産を審査しています。私は今までに合計400件くらいを審査してきました。

現在、世界遺産総数は962件、そのうち文化遺産は745件、自然遺産は188件です。世界遺産は危機に瀕している遺産を守る発想から危機遺産リストは38件あります。一番最近、世界遺産条約を締約した国はシンガポールです。

世界遺産になるためには、文化遺産には6つの基準があります。

- ① 人類の創造的才能を表現する傑作。
- ② ある期間を通じてまたはある文化圏において建築、技術、記念碑的芸術、都市計画、景観デザインの発展に関し、人類の価値の重要な交流を示すもの。
- ③ 現存するまたは消滅した文化的伝統または文明の、唯一のまたは少なくとも稀な証拠。
- ④ 人類の歴史上重要な時代を例証する建築様式、建築物群、技術の集積または景観の優れた例。
- ⑤ ある文化(または複数の文化)を代表する伝統的集落、あるいは陸上ないし海上利用の際立った例。もしくは特に不可逆的な変化の中で存続が危ぶまれている人と環境の関わりあいの際立った例。
- ⑥ 顕著で普遍的な意義を有する出来事、現存する伝統、思想、信仰または芸術的、文学的作品と、直接にまたは明白に関連するもの(この基準は他の基準と組み合わせる用いるのが望ましいと世界遺産委員会

は考えている)。

これらの基準はひとつだけの基準が適用されることよりも、複数の基準が適用されることが多い。以下、基準ごとにその基準で登録された物件の例示を行う。

自然遺産には4つの基準があります。

⑦ひとときわすぐれた自然美及び美的な重要性をもつ最高の自然現象または地域を含むもの。

⑧地球の歴史上の主要な段階を示す顕著な見本であるもの。これには、生物の記録、地形の発達における重要な地学的進行過程、重要な地形的特性、自然地理的特性などが含まれる。

⑨陸上、淡水、沿岸および海洋生態系と動植物群集の進化と発達において、進行しつつある重要な生態学的、生物学的プロセスを示す顕著な見本であるもの。

⑩生物多様性の本来の保全にとって、もつとも重要かつ意義深い自然生息地を含んでいるもの。これには科学上または保全上の観点から、すぐれて普遍的価値を持つ絶滅の恐れのある種の生息地などが含まれる。

同時に、基準のどれかひとつ以上を満たしている、本物である。全体がうまくカバーされている必要があります。

城郭の場合、松本城はひとつの建築のタイプの典型例であり、これが人類の創造的才能を示す傑作です。姫路城の場合はこの二つを取り上げました。

姫路城が世界遺産に登録されたのは、その美的完成度が我が国の木造建築の最高の位置にあり、世界的にも他に類のない優れたものであること。17世紀初頭の城郭建築の最盛期に、天守群を中心に、櫓、門、

土塀等の建造物や石垣、堀などの土木建築物が良好に保存され、防御に工夫した日本独自の城郭の構造を最もよく示した城であること。

これは、インドのタージ・マハルの庭園です。この申請は難しかった。前の庭園は大きく変わっています。前のものはヨーロッパ的でした。イギリスの植民地のとくに大きく変わつた。昔の庭園に戻してよいのか。ほとんどの人は本当のオリジナルには戻せないと思っている。どこまで本物を追求すればよいのかという難しい課題が、世界的に有名な世界遺産にもある。インド政府は慎重に整備計画を議論しています。

□ 日本の暫定一覧表をめぐる状況

国内の話に戻ります。これから先は松本城に割合近くなります。まず暫定リスト入りを目指さなくてはなりません。

暫定リストに搭載された資産のうち、準備が整ったものを、文化庁の世界遺産特別委員会の審議にかけます。ここでOKになると、世界文化遺産の部会でもう一度審査されます。

無形文化遺産には、日本の和食が出ています。これがこれからもうすぐ審査に入ります。

ここでOKになると、省庁連絡会議で国として決定します。稼動資産に関して、工場など産業遺産については、別ルートが内閣官房を経由で提案、作られます。

暫定リストはどういう形で作られているか。日本は1992年に世界遺産条約の締約国になった時に、暫定リストは10件の自然遺産だけを文化庁の議論で出しました。

鎌倉(武家の古都・鎌倉)が申請中で、彦根(彦根城)が準備中です。他は世界遺産になりました。その後、暫定リストに追加がありました。1995年には、原爆ドームが追加になりました。原爆ドームは非常に重要であるということで暫定リスト入りして、1996年には世界遺産(文化遺産)になりました。

その後、暫定リストが減ってきたので、追加することになり、2001年に3つを追加することになりました。この時の議論のやり方は、他のものとは似ていないものと考えるところということです。

①石見銀山(石見銀山遺跡とその文化的景観)(2007年世界遺産)は産業遺産なので、他になかった。

②熊野歩道(紀伊山地の霊場と参詣道)(2004年世界遺産)。これは道なので、他にない。

③平泉(「平泉ー仏国土(浄土)を表す建築・庭園及び考古学的遺跡群」)(2011年世界遺産)。平泉は、東北にあり、京都や奈良にひけを取らない文化財である。

この時、重要だが、入らなかったのは、富士山です。トイレ問題など環境上良くないため見送られました。

その後、富士山は2006年から2007年には、自治体側から提案する形で暫定リストに追加することになりました。この時、松本城は提案されたが、リストには上がらなかったです。

文化庁は、内部だけで決めるのはよくないということ、地元からの提案などの提案制度ができました。

提案が受け入れられて暫定リストに上が

つたものに、富岡製糸場と絹産業遺産群系、佐渡鉱山の遺産群、富士山と信仰・芸術の関連遺産群、飛鳥・藤原の宮都と関連遺産群、九州・山口の近代化産業遺産群、宗像・沖ノ島と関連遺産群、長崎の教会群とキリスト教関連遺産などがあります。

候補になったものは、二つに分かれます。

①かなり有望なもの。提案のまま。あるいは研究を深める(1A)

②もう少しきちんと方向を考え直すもの(1B)

松本城は1Bに入ります。お城を単体とすれば、姫路城が入っているので、お城と一緒にすることなどを考えなければいけない。文化庁が提案するときに、自治体ができることと、できないことがありますので、知恵をいろんな方面に求めるのは良いことです。松本城は松本市が提案するが、提案のまとめ方には限界があるわけです。それは国が指導するべきです。

例えば、お茶室があります。日本の茶道は世界的に有名です。しかし、お茶室だけではすまない。日本のお茶室をまとめ、日本の茶室群とすればどうかと思います。これは国がやらないとできないことです。

他には日本の大名庭園があります。日本三名園もあります。庭園の代表例をうまく集めれば、世界中の人が感激するものと私は思います。

いくつかの非常に重要なものが抜け落ちているわけです。お城もその一つであると思います。姫路城だけでよいわけではないです。今、日本人にとっては、お城は当たり前ですが、世界のいろんな人に説明する理由をつけなければなりません。どういう理由をつ

けたらよいかです。今動いているもので、一番参考になるものは富士山です。

目 世界遺産に推薦する富士山、鎌倉など暫定リストの動き

◆富士山と信仰・芸術の関連遺産群

富士山は、信仰の山と、芸術の源泉という二つの理由で推しています。

富士山は名山であるという表現は、日本的になりますが、海外の人にわかってもらうように、信仰の山と芸術の源泉にしました。

これは、絹本著色富士曼荼羅図というもので、富士山本宮浅間大社蔵です。富士山に行く行者が、富士山が一つの曼荼羅であると描いたものです。

富士山の頂上には、阿弥陀様がいます。行者は浅間神社におまいりして登っていきます。登っていくうちに、林から草地に出て、最後は岩場に行く。死後の世界へ入って行くことにより、人間がよみがえる。再生するという信仰の山です。

そういう山のあり方は、世界でも珍しい。遠くまで拝むだけの山もあります。登ることが、修験道とからんで、人間の再生にまつながる。六根清浄です。

これは富士吉田にある北口浅間大社です。浅間大社にお参りしてここから登り始めます。ジグザグになっているが、土石流があつたからです。本道があつて、今までの石像がたくさんあります。忍野・富士吉田集落には富士講の人がとまる館がたくさんあります。

富士山は、最近ではすごくきれいになりました。地元の方が毎週のようにボランティア

アでゴミ掃除登山をしていて、ゴミは全くないです。富士山は汚いとずっと言われてきたので、地元の人が努力をしてきた成果です。

山小屋はたくさんありますが、サービスはよくないことが問題です。トイレは以前とは比較にならないくらい清潔できれいなバイオトイレになりました。

これは世界遺産を考える時に、どこまで選ぶかという初期のころの図です。赤いところを選んでいきます。富士山は、どこまでが富士山か。登山口から五合目まで。富士五湖、ばらばらになっているとつながりが悪い。それでも25箇所あります。今言われているのは三保松原ですが、三保松原は富士山からは離れすぎているのが、問題です。眺望が良いところを選ぶ。千円札の図柄のここだけを守ろうと努力しています。

富士山は葛飾北斎の「富嶽三十六景」に代表される数々の浮世絵など、さまざまの絵画により、信仰の山として描かれています。これはゴッホの絵です。富士山が芸術の源泉なったのは、浮世絵だけでなく浮世絵を通じて世界に影響を与えました。

文化的景観だけでなく、自然美が美しいので、自然遺産でもよいのではないかという意見もありますが、今回は自然遺産ではチャレンジしないことになっています。

これは富士山の5合目です。最近では5合目から登る人が多くなりましたが、それが問題でないかとも言われています。夏場には30万人以上の人が登山しています。そういう混雑や環境を今後どうコントロールするかです。

2合目や3合目には人は行かないので、

昔の山小屋は朽ち果てています。頂上に自動販売機はいるのか、これでよいのかと思います。世界遺産という目標があるので少しずつ改善されてきています。

◆武家の古都・鎌倉

鎌倉は、鶴岡八幡宮の周りに山やお寺があります。中央は近代都市になっています。これをどういうふうにかえるかです。

これが鶴岡八幡宮で、中世からある都市のメインストリートです。山を囲んで、小さなお寺がたくさん並んでいる。こういう地形の中にはめ込まれていることが大事です。周りのお寺や神社と地形との関係です。ここが、京都や奈良の都の正方形とは違い、新しい都を武家が作ったところに新規性を求めています。

市街地の建物は、高さ8メートルから15メートル以下にしています。これほどの観光地に高い建物を建てないのは、世界遺産への目標があるからです。

山ぎわにお寺がいくつもある。お寺の裏側には鎌倉石を掘った切り石が庭園に使われています。鎌倉は大観光地ですが、地形との関係が非常によいのではないか。鎌倉は、よく見ると面白い地形の中にはめ込まれた都市があるので、うまく取り上げて説明しようとしています。

谷のひだにお寺や貴族の館があります。それが今、遺跡として発掘されています。裏側はハイキングコースになっています。これは古道で、鎌倉の初期に意図的に作られた街道です。

◆富岡製糸場と絹産業遺産群

これは富岡製糸場です。建物が非常に立派です。明治5年にフランス人が作った日本

のモデル製糸工場です。中には昭和の始めの機械がまだ残っています。

ここで生糸を生産して、外貨をかせいだ。これが日本の近代化に貢献したことをストーリーにしようとしたが、最終的にはストーリーを変えました。日本の近代化は他にもいろいろあるからです。

製糸工場で生糸を輸出するためには、養蚕が盛んにならなければなりません。

これは上州にある養蚕農家です。二階に蚕部屋をもった新しいスタイルの農家が生まれました。蚕の繭を育てたり、冷蔵する施設がうまくできて、生産調整がきよくなった。繭の生産を工夫して生産調整する。農家から繭の蔵、生糸工場というセットで、生糸が作られていったことが絹織物を大衆化した。それまでは絹織物は非常に高価で貴族の人しか手に入らなかったが、たくさん生産することにより大衆化した。ヨーロッパに絹織物が導入され服飾文化に革命を起こしました。

日本が世界に対して生糸が供給される技術革新を行うことによって、服飾文化が豊かになった。絹織物を庶民が手にすることができるようになったというのが、ストーリーの苦心のあとです。

日本の近代化とは言わないで、世界にとつて大事であることをいうためにストーリーをどう組み立てるかが大事です。

◆長崎の教会群とキリスト教関連遺産

長崎の教会群ですが、和洋折衷の教会です。これは隠れキリシタンの歴史です。2年後には、隠れキリシタンが大浦天主堂で発見されて150周年になります。

これは平戸です。お寺の向こうに、キリシ

タンの教会がたくさんあります。これは長崎市外です。隠れキリシタンは迫害され、人がいないところに逃げていきました。

当時、教会はまだなくて、幕末から明治にかけて教会ができました。それまでは地下に潜行して祠を使っていたようです。

隠れキリシタンには地下での長い歴史があります。それも含めて大事です。教会はそんなに立派というわけではなくて、しかも、キリスト教徒の迫害の歴史は世界中にあるので、特別ではないわけです。説明のしかたに工夫が必要です。

◆九州・山口の近代化産業遺産群

く非西洋世界における近代化の先駆けく

九州・山口の近代化産業遺産群です。

これは鹿児島湾と桜島です。1861年の薩英戦争でイギリスの軍艦がきて鹿児島を攻撃しました。なぜか。その前に参勤交代の武士が、馬を横切ったイギリス人を殺したという事件がありました。(生麦事件)。それに対して賠償を要求してきた。こういうこともあり、南の藩は西欧列強の圧力にさらされていました。

西南藩は外国のプレッシャーが強かったために、幕末から西欧列強の植民地にならないためには、産業を興さなければならぬと考えました。直接の契機はアヘン戦争です。日本は植民地にならないように、蘭学を学び、外国人を呼んで近代化を図りました。

日本の産業の近代化は、お金持ちがお金を稼ぐためではなく、国家が、もしくは藩が、自分の国を守るために、大砲を作り、軍艦を作るために、鉄が必要、船が必要で、す。だから重化学工業を興す必要がありました。

1850年から50年間くらいの間にもすごいスピードで近代化したのは、ヨーロッパ以外では日本が初めてです。

・萩の工業化初期の時代の関連資産と徳川時代の文化背景(山口県)

・集成館の先駆的工場群(鹿児島県)

尚古集成館(しやうこせいしゅうせいかん)は、薩摩藩第28代当主島津斉彬によって始められた集成館事業。

・佐賀(佐賀県)

佐賀の三重津海軍所で、蒸気船を作った跡です。

・橋野鉄鉱山と製鉄遺跡(岩手県)

釜石の橋野高炉跡(はしのこうろあと)です。実際に高炉で大きな船が作るようになりました。

このように、ものすごいスピードで近代化を図ったことは、顕著で普遍的な価値であるというストーリーです。

難しいのは、強制連行や強制労働もあつたりするので、特に、韓国の人は面白くないわけです。

・八幡製鐵所(福岡県)

八幡製鐵所には港ができました。

非常に広い範囲の、しかし、ストーリーとしては、日本の近代化をセットで見せようという話です。物語としては、説得力はあるが、近隣諸国の関係が微妙になるという問題があります。

◆百舌鳥・古市古墳群(もず・ふるいちこふんぐん)

大阪平野の南部にある百舌鳥・古市古墳群(もず・ふるいちこふんぐん)です。巨大な前方後円墳を擁する古墳群として知られています。巨大な前方後円墳は日本だけ

ですが、ここに集中しています。400メートル規模の古墳があり、世界最大級です。

日本中に前方後円墳があるということ
は、それぞれの豪族が同じスタイルを作った
プロセスと考えることができます。

これは仁徳天皇陵の公園です。水をもつたお墓は少なく、仁徳天皇陵には三重のお堀があります。途中から農業用の灌漑用水になります。そこも含めて価値に入ると
思います。周りに建物が見えてくるので、これをどうするかの問題があります。

これは、いたすけ古墳です。昭和30年頃、土砂の採集と住宅造成のため破壊されそうになったが、市民運動によって保存されました。工事の際の当時の橋が残っています。

ここは、縄文文化が比重に色濃いところ
です。日本の縄文文化でなぜ、ここを選ぶのかをうまく説明しなければなりません。

◆国立西洋美術館・本館

フランス政府は2008年2月、世界の6カ国(フランス、スイス、ドイツ、ベルギー、アルゼンチン、日本)にあるル・コルビュジエ作品19件を「ル・コルビュジエの建築と都市計画」としてユネスコ世界遺産に一括推薦しました。

しかし、2009年6月22日からスペインのセビリアで開催された第33回世界遺産委員会では、普遍的な価値の証明や保存管理状態などの課題が指摘され、登録が見送られました。

フランス政府は関係6カ国を代表して2011年2月、構成資産を19件に変更し、改定推薦書「ル・コルビュジエの建築作品―近代建築運動への顕著な貢献―」を提出しま

した。

2011年6月19日からパリ(フランス)で開催された第35回世界遺産委員会は「登録延期」を決定。登録はなりませんでしたが、推薦書を再提出することによって登録の可能性が残りました。

(19) 世界遺産に推薦されたル・コルビュジエ作品

フランス(12) ラ・ロッシュユージュアンヌレ邸、サボア邸、ジャウル邸、ペサックの集合住宅、カップ・マルタンの小屋、スイス学生会館、ナジユセル・エ・コリ通りのアパート、マルセイユのユニテ(集合住宅)、ロンシャンの礼拝堂、ラ・トゥーレットの修道院、サン・ディエの工場、フィルミニの建築物群

スイス(3) ジャンヌレ邸、レマン湖畔の小さな家、イムーブル・クラルテ(集合住宅)

ドイツ(1) バイセンホフ・ジードルングの住宅

ベルギー(1) ギエット邸

アルゼンチン(1) クルチエット邸

日本(1) 国立西洋美術館・本館

国立西洋美術館は、当時株式会社川崎造船所の社長であった故・松方幸次郎氏がヨーロッパ各地で集めた絵画、彫刻(松方コレクション)を基に、1959年(昭和34年)に設立された美術館です。松方コレクションは戦後、サンフランシスコ平和条約によりフランス政府の所有に帰していましたが、その後、フランス政府の好意により日本に返還されることになりました。

返還に際しては、フランス政府からそれを受け入れるフランス美術館の創設が不可欠の条件として提示され、ル・コルビュジエ氏
の設計で建設されたものです。

国立西洋美術館は、1979年(昭和54年)には新館が1997年(平成9年)には前庭地下に企画展示館が増築されました。(いずれの建物もル・コルビュジエに師事していた前川國男設計事務所が設計)。

国立西洋美術館・本館についてです。ル・コルビュジエという一人の建築家の世界中の作品の中の一つとして選ばれて、日本からもやろうということになりました。

この建物は改築が多く、この階段も新しく作り直しました。この下には地下の坑道があります。この建物を設計したのは、コルビュジエのお弟子さんです。ここに入り口があります。増築空間です。通路をつないで、増築ができる美術館のシステムになっています。これが価値の一つです。こちら側にも増築の口があります。

これは公園を作るときの、当時の模型です。こういう建物は変化します。戻す必要があるのか。過去のを尊重しながら、いろんなことをやってきたという意味では、日本は他の国よりよくできています。

世界の他の20のプロジェクトと一緒にやっています。足並みがそろわず、まだ途中段階で止まっています。

IV 松本城を巡る議論について

お城のことを考える時に、城下町の価値と、お城の建築の価値があります。どう仕分けるかが問題です。

お城だけでは片手落ちです。城下町そのものを守るべきではないか。町ですから近代化しています。一番よく城下町が残っているのは萩です。世界遺産に手を上げているのは、金沢と彦根があります。

私人としては、城下町のそれぞれの部分を大事にしますが。建物としての天守、城郭を取り上げて世界に対してきちんとした説明ができる重要なものと考えます。なぜ、天守を取り上げるといいのかというと、国の統治のスタイルをあらわしているからです。お城があつて、天守がシンボルになっています。

それをやったのが信長で、作り上げたのが秀吉です。統治のシンボルとして日本中に定着させたのは家康です。世界中に軍事施設はあるが、その中でも際立っています。天守は木造です。大砲をやられたら終わりです。日本の場合は、木造の天守のままでした。その頃は平和だった。

実際に大砲が使われたのは、西南戦争です。大砲が使われているので、お城は全く無用です。激戦だったのは、熊本城です。お城を焼き払って戦争をする。大砲でやられたら、実戦がやられたら、お城があれば、混乱する。無用の長物化です。

国の統治のスタイルを示しているシンボルであるという非常にユニークな軍事施設が残った。これは短い時間、つまり50年間くらいで完成した。それ以後は作られなかった。独自の建築システムを構築したといえます。非常に詳細な記録を幕府が残しましたので、全体像が把握できるということで、意味があります。

日本のお城は、さまざまなものがありますが、天守だけを取り出しても一つのストーリーができます。

これは安土城です。この天守の回りに武士団を住ませた。周りには都市があった。山の頂上まで続いて、一番上に天守があり、

そこに信長は住んでいた。周囲三方は琵琶湖でした。山の上、天守台の発想が生まれた。信じられないが、天守台は信長の住まいでした。

大阪城は秀吉が作ります。戦国時代から作るが、大阪は、近代はこういうものを作らなくなりました。

天守にはてすりがありません。これは住まいであつたなごりです。望楼型天守(ぼうろうがたてんしゆ)といいます。信長が寝起きた時代、信長が寝起きた時代の痕跡を残しています。

彦根城は、望楼型天守のものが残っています。天守はデザインが徐々に変化し、望楼型天守と層塔型天守(そうとうがたてんしゆ)に大別されます。

出発から完成形までが50年くらいできていった。まさに日本が、国家統一がなされていく時代の中だったわけです。こういう建物はそれぞれの時代において、それぞれの秩序によって作られました。

秀吉の大阪城が一番立派で、少し小さいお城が広島、岡山にでき、国家の秩序を表した。これに対抗してできたのが、名古屋城、江戸の城です。その大きさを頂点にして、自分の身分にあわせて規模の小さいお城を築きました。お城は統治の象徴であると同時に、国家が一つの秩序の中に治められていく象徴でもありました。

そういうことから天守台を見ると、16世紀から17世紀の日本が、いかに統一されて、建物が非常にシンボリックな役割をはたしていたことが見えます。

ということストーリーに作り上げていくことで、一つの物語になります。いくつかの次代のセットを取り上げることが非常に

重要であると思います。

そのセットの取り上げ方についてです。一番良い例が**インドの山岳鉄道群**です。最初は一っただけでした。ダーズリン・ヒマラヤ鉄道のみが対象とされた世界遺産でしたが、2005年ニルギリ山岳鉄道と2008年にカールカーシムラー鉄道が登録拡大されました。今は3つの鉄道をセットにしています。

よく似ているものとして、**イランのペルシャ庭園**があります。イランの同じような8つの庭園をセットでペルシャ庭園としています。

姫路城は、平成5年には世界遺産に登録されました。姫路城を作ったときは、どういうストーリーだったのか。当時は初期だったので、文化庁が全部作りました。提案書そのものが大変薄かった。中身を見ると、一つの日本固有のものといっているだけで細かい説明はしていません。

その説明を拡充して、今残っているお城(12城)をみて、どう位置づけ、組み合わせると、ストーリーを組み立てられるか。幅広く、いろんな城郭を見て、ストーリーに何が一番はまるのか。議論する必要があるかと思えます。

日本のことを知らない世界中の人に分かりやうする必要があります。短いことばで分かりやすく、その価値を表す。そのストーリーは複数のものを並べることで、説得力を持つことがあり得ると思いますので、そういう議論をしていきたいと思っっている次第です。

以上で私の話を終わります。

質疑応答

質問：村山と申します。まず、松本城にこれだけ関心のある方が集まったことに、私は本当に嬉しく思います。

数年前に松本市が松本城を世界文化遺産に申請したことがあるようです。その時に文化庁はまだだめですということでした。なぜかという、松本城は城郭だけ整備してもだめで、世界遺産には評価できません。日本固有の都市である城下町のシンボルが高く評価されないとだめであるということ。城郭の整備だけでなく、城下町の整備をしないといけないことだと思います。それを具体的に、先生のお考えをお聴きしたいと思います。

回答(西村)：城下町は日本固有のもので大事であるというんな方が言われます。松本市もお城にふさわしい周りの建物のあり方(高さ規制や色彩やデザインなど)は、今までもやっているとありますが、それ以上にやる必要があります。それぞれ住んでいる方が考えるのが、重要だと思います。

そのための都市計画条例にも必要です。松本にもあるわけです。そのことと、世界遺産とどう結びつくかは別です。

文化庁の本音は、文化財の保存が進むことです。守るのは、大事なことです。世界遺産に結びつくかはどうか。城下町は大事である。

現実的には、城下町の中で、萩と金沢と、いろいろなパッチワークのように、いろいろな組み合わせればいいという方もいますが、どうでしょうか。さきほどの九州・山口の近代化産業遺産群の中で、産業革命が起こる前に、萩が入っています。

私は少なくとも建築の類型として、城郭建築は、他の国の専門家を説得するだけの力があると思います。城下町まで入れることも理想ですが、天守台を比べることで、もっと広いストーリーで説得することができるのではないかと。

最近では世界遺産の写真を撮っても、どこか分からないことが多い。その点、お城は見た瞬間に分かります。

天守だけでも十分力はあると思います。いくつかのセットで考えれば明確なストーリーを作ることができると思います。

城下町を見捨てるわけではないが、世界遺産とは世界に納得してもらおうストーリーづくりが必要です。

例えば、平泉の場合でも周辺は非常に大事だが、世界遺産になるために中心部のお寺と庭園に集中しました。

世界に対してどういう形で説得できるかが大切です。お城の専門家の意見を聞きながら慎重に議論することが必要かと思えます。お城の専門家は、一時代前より進んで、お城のことはだいたい分かったという感じで、専門的な議論が行われなくなりました。

最近では、年輪年代法(樹木の年輪による年代測定法。樹木年代法ともいう)建物の部材がいつごろのものかは、科学的に特定することができません。初期といわれる建物がいつごろ建てられたか、本格的に調べてはいないようです。まだまだ研究の余地はあります。

ここで世界遺産の議論するうえで、一番近道ではないかというのが、私の考えです。城下町を決して否定するものではありません。